

シュンギク (キク科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	タネまき	収穫				タネまき	収穫				

品 種

家庭菜園にはつみとり用の中葉種が最適でしょう。

〔中葉種〕生育旺盛で立ち葉タイプの「きわめ中葉」「おやさ中葉」など。

栽 培 ポ イ ン ト

日当たりのよい場所にまきます。涼しい気候を好み寒さには強いのですが、霜には弱いので、降霜前にビニールトンネルをかけて防寒します。

土のより好みは少なく、ほとんどのところで育ちますが、土の乾燥には弱いので、有機質に富んだ保水力のある土が理想的です。酸性土壌では初期の生育が悪くなりますから、タネまきの2週間くらい前に、1㎡あたり2握りの苦土石灰を施してよく耕し、土の酸性を中和させておきます。

タネは古いと発芽率が悪いので、新しいタネを、多めにまいて、発芽後に密生部を間引くほうが安全です。また、タネは好光性なので、厚く覆土すると発芽しません。薄く覆土することがたいせつです。1週間ぐらいで発芽します。

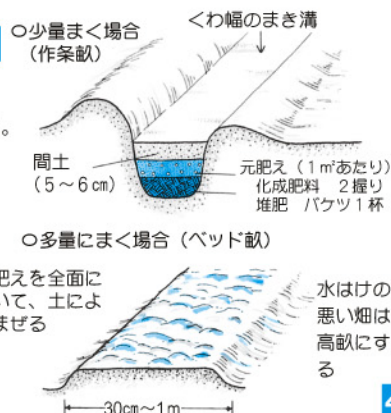
生育にしたがって、間引きをして株間を広げますが、間引きながらも収穫できます。つみとり用種は分株が旺盛なので、秋から冬どりするものは、株元から抜きとらず茎をつみとり、そのあと伸びてくるわき芽を何回も収穫するようにします。春からはとう立ちしやすいので、春まきは、早めに抜きとって収穫します。

栄 養

カロチン、ビタミンC、カルシウムを比較的多く含んでいます。

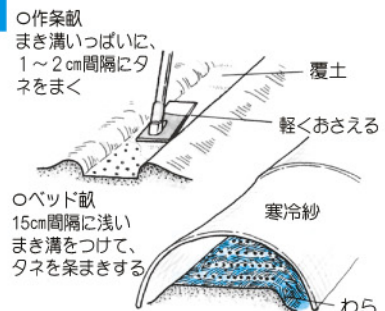
1 畑の準備

タネまき1週間前に、元肥を施して畝を作る。



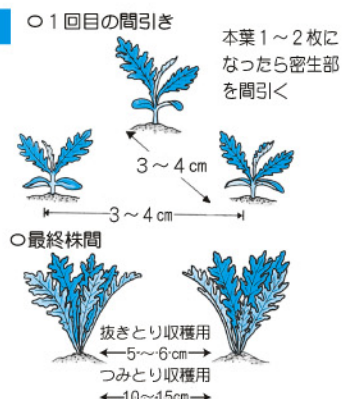
2 タネまき

新しいタネを一昼夜水に浸してからまき、土を薄くかけ、表面を軽くおさえる。高温乾燥期はタネまき後、わらや寒冷紗でおおって発芽がそろふ。畑が乾燥している場合は十分に水をやる。



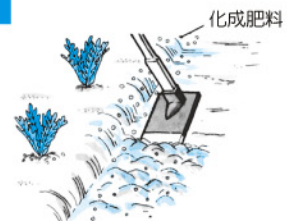
3 間 引 き

2回目以後は、密植状態にならないよう、最終株間になるまで適宜に間引き、間引き菜として利用しながら、株間を広げてゆく。抜きとり収穫用には最終株間は狭くてよいが、つみとり収穫をする場合は株間が広いほうが質のよいものが長く収穫できる。



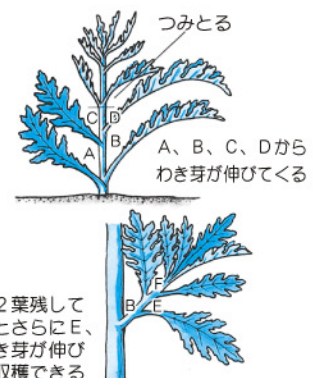
4 追肥・中耕・土寄せ

間引き後、畝間に化成肥料を軽くばらまき、中耕して株元に土を寄せる。



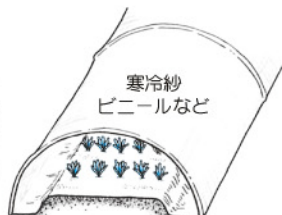
5 つみとり収穫

草丈15cmぐらいになったころ、本葉4~5枚を残して、その上をつみとる。



6 防 寒

降霜前に寒冷紗やビニールトンネルをかけて葉の傷みを防ぐ。早く被覆しすぎると軟弱徒長し、病気が出やすくなる。



主な病害虫
◆病気 ベと病、炭疽病
◆害虫 アブラムシ、ヨトウムシ、ネキリムシ

わき芽を2葉残してつみとるとさらにE、Fからわき芽が伸びて、再び収穫できる